

終末期・緩和ケア作業療法研究会のみなさま

さわやかな新緑の季節、金環日食が話題の一日ですが
会員のみなさまはお元気でお過ごしのことと思います。

さて、19日土曜日に特別企画研修会として
「被災地における終末期支援」のテーマで
株式会社桜代表 復元・納棺師 笹原留以子先生にお話をいただきました。
笹原先生がNHKの密着取材を受けて全国に流れたニュース映像に始まり、
被災地の状況が身にしみるようなお話に、生きること、死んでいくこと、
家族とは、故郷とは、人と人のつながりとは何なのかを改めて考えさせていただき、
意義深い午後の時間でした。

笹原先生が継続していらっしゃる「魂に届く活動」の一端をご紹介いただき、
まだまだ被災地で作業療法士の役割もあることを実感し、参加した一人一人が
自分に何ができるのかを考えていく機会にもなったと思います。

20日日曜日は入門研修会「今から始める終末期・緩和ケア作業療法」が開催されました。
土曜日に引き続き、笹原先生から「終末期におけるコミュニケーション」のテーマで始まり、
ふくしま在宅緩和ケアクリニックの医師 鈴木雅夫先生から「終末期・緩和ケア総論」、
東札幌病院の大原有郁子作業療法士から「終末期・緩和ケアの作業療法」、
最後にNPO在宅緩和ケア支援センター虹代表 中山康子看護師から
「終末期・緩和ケアのデイケア」についてお話いただきました。
どの講師のお話も、わかりやすくかつ心に響く内容で、充実した一日でした。

東北大震災から1年と2ヶ月、こんなに早く仙台での研究会が実現できたことは
本当に嬉しく、ありがたいことです。東北各県、関東、近畿、九州から70人以上の参加でした。
今回の研究会が無事開催でき、大変充実した内容となったのも、
高橋・大貫先生はじめ宮城・岩手の方々、また遠隔地から準備をお手伝いくださった
理事・委員ほか多くの方のお陰です。改めて感謝いたします。

おりしも仙台は「青葉まつり」の真っ最中。
復興への祈りとともに子どもたちの健気な姿が仙台を明るく元気にしていました。
また少し仲間も増えて、ますます研究会が良い活動をしていくことが使命だなあと
改めて感じた二日間でした。みなさま本当にありがとうございました。
また次にお逢いできることを楽しみにしつつ、ご報告とさせていただきます。

2012年5月21日 目良幸子